

営農情報 8月号 <水稻の栽培ポイント>

1 生育状況

○田植え作業は概ね順調に行われ、その後の気温は平年並に推移したことから、6月中旬移植の水稻の生育は、高温で経過した前年と比較してやや遅れています。

○気象庁の3か月予報（6月23日発表）によると、7月から9月の平均気温は高いと予想されています。気温が高いと水稻の出穂期が早まる可能性があります。病虫害対策のため、畦畔の草刈りや薬剤散布の適期を逃さないように注意しましょう。また、出穂期前後は水管理が特に重要です。適切な水管理に努め、乳白米や胴割米の発生を抑え、高品質米の生産を目指しましょう。

2 水管理

（1）間断かん水の継続

中干し後、出穂30日後までは、3日～数日おきにかん水と自然落水を繰り返す間断かん水を行いましょう。葉色が平年よりも淡いほ場や、茎数が不足しているほ場では強い中干しは避け、追肥まで間断かん水を継続しましょう。入水の目安はほ場の足跡に水が残る程度です。出穂期から開花期は最も水を必要とする時期です。出穂前3日頃から出穂後5日頃までは水を切らさないように注意しましょう。

（2）出穂後の高温対策

出穂期から出穂後20日頃にかけて高温（最高気温30℃以上）が予想される場合は、胴割米や乳白米等の発生を防ぐため、夕方から夜間にかん水を行い、地温を下げて根の活力維持に努めましょう。一方で、高温時の常時湛水は水温の上昇を招き、根腐れが起こりやすくなります。

（3）出穂後の落水

早期の落水は登熟歩合の低下や乳白米、胴割粒の発生を助長し、収量・品質の低下につながります。落水は出穂後30日～35日頃を目安に行いましょう。その後も高温・多照が続く場合は、ほ場条件を考慮しながら、収穫7～10日前まで走水を実施し、登熟の維持と品質の確保に努めましょう。

3 穂肥の施用

適期の穂肥施用は1穂粒数の確保や粒の充実を促し、収量や品質の向上に重要な管理作業です。葉色が淡く茎数が不足している場合は、下表の基準より2日程度早い追肥を行いましょう。ただし、早過ぎる追肥は倒伏を助長する恐れがあります。また、多量施用や遅い時期の施用は、玄米中の粗タンパク質含有率を高めて食味の低下を招くなど、品質に悪影響を及ぼす場合があります。

（1）穂肥適期

稲の生育状況に応じて、適期に適正な量の穂肥を施用しましょう。

ただし、基肥一発肥料（BBあさひの夢専用、とちぎの星専用など）を使用した場合は、極端に葉色が淡い場合を除き、原則として穂肥の必要はありません。

品種名	穂肥の時期	10 a 当たり施肥量（肥料の例）
とちぎの星	出穂の15日前 （幼穂長20mm）	窒素成分2～3kg NK-505号（速効性肥料）：15～20kg NK-205号（一発穂肥専用肥料）：10～15kg
あさひの夢	出穂の20～18日前 （幼穂長5～8mm）	
にじのきらめき	出穂の18～15日前 （幼穂長8～20mm）	窒素成分3kg NK-505号（速効性肥料）：20kg NK-205号（一発穂肥専用肥料）：15kg

4 斑点米カメムシ類の防除対策 【重要】

(1) 除草

カメムシ類の対策は除草が基本です。水田周辺のイネ科雑草の結実を長期間抑え、カメムシ類の水田への侵入を防ぐため、水稻の出穂 2～3 週間前と出穂期頃の 2 回除草を行きましょう。両時期の除草が難しい場合は、水稻の出穂期 10 日前までに除草を行きましょう。

※出穂期：一粒でも止葉から籾が出たら出穂とみなし、ほ場の全茎数の 40～50%が出穂した日のことです。

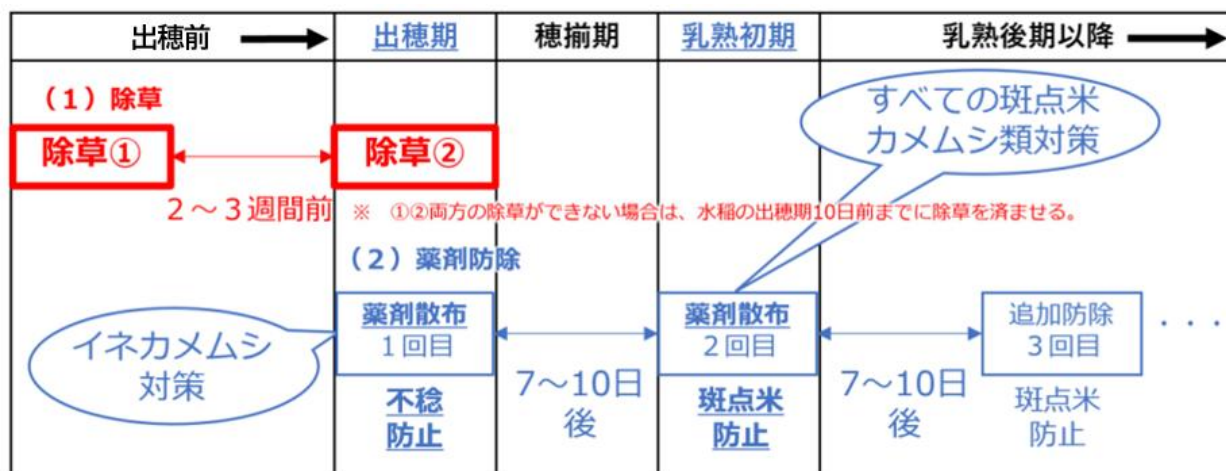
※出穂期前後のみの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込み、出穂した穂への集中加害を招く恐れがあります。原則として避け、計画的な除草に努めましょう。

(2) 薬剤防除

斑点米カメムシ類の防除は、出穂期頃と出穂期の 7～10 日後を目安に、2 回実施しましょう。イネカメムシによる不稔被害の抑制には出穂期頃の防除が有効です。また、イネカメムシを含むすべての斑点米カメムシ類による斑点米被害の抑制には、出穂期の 7～10 日後の防除が有効です。薬剤は、液剤では出穂期の 7～10 日後まで、粒剤では出穂期から出穂期 7 日後までを目安に散布しましょう（下表）。その後も斑点米カメムシ類の発生が見られる場合は、発生状況に応じて 7～10 日間隔で 3 回目の防除を行きましょう。

※穂ぞろい期とはほ場全体の茎数の 80～90%が出穂した日のことです。

※小型のカメムシ類（イネホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）には粒剤や豆つぶ剤の防除効果がありますが、大型のカメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ）は、直接薬剤がかからないと薬剤の効果が十分に発揮されないため、粉剤や液剤で防除を行きましょう。



カメムシ類に登録のある防除農薬の例

令和 8 年 7 月 1 日時点の登録内容

農薬名	希釈倍数、散布量	使用時期	使用方法	使用回数
スタークル豆つぶ	250g/10a	収穫 7 日前まで	散布	3 回以内
トレボン EW	1,000 倍 60～150L/10a	収穫 14 日前まで	散布	3 回以内
キラップフロアブル	1,000～2,000 倍 60～200L/10a	収穫 14 日前まで	散布	2 回以内
スミチオン乳剤	1,000 倍 60～150L/10a	収穫 21 日前まで	散布	2 回以内

農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

※イネカメムシの防除対策については営農情報 7 月号もご確認ください。

◎詳しくは安足農業振興事務所 経営普及部（TEL 0283-23-1431）、JA 足利営農指導員・営農相談係・TAC にご相談下さい。